



お酒にまつわるはなし



whiskycat

第二夜 モスコミュールの味は・・・

わたしが、初めてカクテルを飲んだのは、
「モスコミュール」でした。

優しくしてくれた彼が教えてくれたカクテルでした。
彼の不思議な雰囲気惹かれ
気が付いたら虜になっていました。

わたしは、彼に好意を抱いていたのですが
彼の方は、さっぱり・・・

でも、気になる素振りを見せるので
私はつい、『私に好意あるのかな』
って思ったりもしていました。

彼に会いたいのに
会ってもらえず
そのたびに

モスコミュールを口にして
彼の面影を抱きしめていました。

恋焦がれながら飲むお酒は
苦しくてつらいお酒でした。

でも、飲まずにはいられない心境でした。

「お願いだから、冷たくして！
中途半端に優しくしないでほしい！」
と、思いながら飲んでいました。

心にたまった涙はもう大洪水でした。
そして、何と5kgも1ヶ月のうちに痩せてしまいました。
恋の病にかかったのですね。

彼への想いが断ち切れない時

わたしは、モスコミュールを飲みます。
目を閉じて、心を澄ますと

彼の優しい吐息を感じるのです。

「もう一度、会いたい」
断ち切れない想いを忘れるために

モスコミュールを飲み干します。

第一夜：やまとなでしこの意地

★THE BAR★

週末の夜

ちかくのショットバーに行った

10人入れれば満員御礼の小さなバーである

午後8時過ぎ

この時間ならまだ

空いているかもしれないと思いドアを開けた

カウンターの真ん中には、二人の客が座っていた

「久しぶりだね。元気だった？」

と、お手拭を渡しながら、

わたしにいつもの挨拶をした

「うん、元気だけど、

仕事忙しかったし、お金もなかったしで……」

と苦笑しながら答えるわたし

今日流れているBGMはジャズだった

若きジャズ奏者だった

名前は忘れてしまった

「とりあえず、カクテルに……」

というのを、遮るように、先客の男性が

「x○◎x！」

とわけわからない言葉で

声をかけてきた

薄明かりでよくわからなかったが

ブロンドの外人男性だった

酔っ払って

ろれつのもわらない英語を

しゃべっていたようだ

少々目がすわっている

「いやだな」

と思った

たどたどしい日本語で

「一緒にのみましょうおー」

と言ってきた

彼のもっているのは

ショットのテキーラだった

もうひとり、彼の友人らしき男性も

「さぁw、飲み比べしましょう～！」

と言ってきた

「マスター!

お水ちょうだい！」

と、わたし

「いいわよ!

飲み比べしましょう！」

「やまとなでしこの意地 みせましょう！」

と、戦線布告してしまったのだった

そして、テキーラの飲み比べ大会が

このバーで行われることになった

三人の貸切状態だったので、できたのだろうか

勢いとはこわいものだ

お店にはいってすぐに、テキーラ飲むなんて……

「ショットガン or メキシカンスタイル？」

わたしたちは
メキシカンスタイルで勝負することに

そして、始まった…

三人いっせいに
ストレートのテキーラを右手に持ち
左手の甲に塩をのせ、ライムを持って
塩を舐め、そしてライムにかぶりついた
それから、勢いよく一気に飲んだ

けっこう、これはキツイ…
そして、何度かこの同じ行動を
三人同時に行っていた

で、結局、最後まで決着つかず
引き分けになってしまった。

今日は、これで帰らないとさすがに、
ヤバいと思い
席を立とうとすると

さっきの外人男性が
耳元でなにかわたしに囁いた

すかさず、わたしは

「やまとなでしこに乾杯！」

とわけのわからないことを言って
バーを出た